ヒノキの曲げ応力緩和に及ぼす湿度の影響*

則元 京**·山田 正**

Misato Norimoto^{**} and Tadashi Yamada^{**} : The effect of relative humidity on the stress relaxation of HINOKI wood

I緒 言

木材の静的粘弾性に及ぼす水分の影響は、それが平衡状態にある場合より非平衡状態にある 場合¹⁾, あるいは吸湿脱湿の繰返しの場合のように水分がある巾をもつて変化する状態で大き く現われ²⁾³⁾, その挙動には非常に興味深いものがある。そこでこの水分の変化が木材の粘弾 性に与える挙動を明らかにするための基礎データーとして、本実験では水分が平衡状態にある 場合の木材の応力緩和に及ぼす水分の効果について調べた。

木材の静的粘弾性に与える水分の効果については、たとえば HEARMON は Celtis 材のクリ ープ実験で温度 25°C では関係湿度75%以上でクリープ曲線に含水率による差異が生ずること を報告し⁴)、 竹村らはブナの曲げクリープ実験でクリープ曲線が含水率の増加とともに急昇し クリープ量が時間と湿度を変数とする変数分離形で表わせることを示した⁵⁾。 著者らはヒノキ の捩りクリープコンプラィアンスが湿度とともに単調に増加しないで動的測定で求められた対 数減衰率に対応するあたりで最小値を示すことや、遅延スペクトルは 10³~10⁴秒の間でピーク をもち湿度の増加とともにそのピークは短時間側に移動することを報告した⁶⁾。 以上はクリー プの結果であるが応力緩和に関しては厳密な水分依存性についての報告は少く、しかも広い含 水率領域にわたつての研究はみられない⁷⁾。

Ⅱ 実 験

試料としてヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* ENDL.) を使用した。その寸法形状を Fig. 1 に 示す。試片の気乾比重, 年輪密度はそれぞれ 0.43, 11年/cm である, 測定は温度 15.0, 46.5,



Fig 1 Specimen C. S. : Cross section R. S. : Radial section T. S. : Tangential section 示すとおりである⁶⁾。 装置はクサリ天秤片持梁曲げ応力緩和装置を使用 した。その略図を Fig. 2 に示す。試片に一定携み量 を与えるには試片の固定端を移動することにより行

い、それに要する荷重を記録装置に伝えて自記させ

62.5℃ の3段階, 湿度は3,10,30,50,75,95% R.H.の6段階について行つた。湿度調整にはシリ

カゲルおよび ZnCl₂, MgCl₂・6H₂O, Mg(NO₃)₂・ 6H₂O, NaCl, Pb(NO₃)₂ の飽和溶液を使用した。ヒ ノキの温度と湿度と含水率との関係は Table 1 に

^{*} 第15回日本木材学会大会で発表

^{**} 木材物理研究部門, Division of Wood Physics.

則元・山田:ヒノキの曲げ応力緩和に及ぼす湿度の影響

R.H. (%) temp (°C)	3	10	30	50	75	95
15	2.5(%)	5.3	11.0	13.2	18.0	22.8
45	2.0	4.6	9.7	11.7	16.1	20.0
60	1.7	4.0	8.9	10.7	14.9	18.3

Table 1. Moisture contents of HINOKI wood at various temperatures and relative humidities.

る。求めた荷重 P(t) より次の片持梁の曲げの 式に代入して緩和弾性率 E(t) を算出し, さら に ALFREY の第一近似式によつて 緩和スペク トル $H(\tau)$ を求めた。

$$E(t) = \frac{4l^3}{bh^3\nu} P(t)$$

÷.

ここに b, h, l はそれぞれの試片の巾, 厚さ, 長さであり, y は撓み量である。ここで与えた y の値は 0.40cm であり, 線型範囲内にあると 考えられる。

Ⅲ 結果および考察

Table 2 および Fig. 3 に緩和弾性率 E(t) Shart O. handle H. sait soft 」 L. ekain K. recorder L. e と湿度の関係を, Fig. 4 に測定時間 10秒 およ point M. liquid paraffin cup.



Fig. 2 Experimental apparatus A. specimen B. hook C. thermometer and thermoregulator D. holder E. fan F. flexible shaft G. handle H. salt solution I. balance J. chain K. recorder L. electrical contact point M. liquid paraffin cup.

び7,200秒における緩和弾性率と湿度の関係を示す。測定時間10秒における緩和弾性率の値は

Table 2.	Relaxation	modulus	E(t)	of	HINOKI	wood.	(radial	direction,	$ imes 10^{ m s}$	kg/cm²)
					(a) 15°C					

R.H. (%) t (sec.)	3	10	30	50	75	95
10	8.37	8.07	7.94	7.54	6.99	6.46
20	8.13	7.90	7.77	7.38	6.81	6.28
40	7.90	7.72	7.63	7,18	6.63	6.08
60	7.77	7.49	7.47	7.07	6.53	5,95
100	7.57	7.32	7.32	6,99	6.35	5.86
180	7.32	7.00	7.14	. 6.87	6.18	5.57
300	7.13	6.88	6.90	6.71	5.99	5.41
600	6.78	6.62	6.80	6.56	5.60	5.13
1200	6.31	6.26	6.52	6.32	5.29	4.66
1800	5.97	6.00	6.37	6.23	5.12	4.44
3000	5.65	5.64	6.23	6.12	4.93	4.16
4800	5.31	5.28	6.09	5.96	4.68	3.87
6000	5,13	5.10	6.02	5.86	4.59	3.74
7200	5.04	4.97	5.94	5.80	4.50	3.68

- 45 -

R.H. (%) t (sce.)	3	10	30	50	75	95
10	7.61	7.25	6.63	6.52	6.08	5.92
20	7.43	7.08	6.54	6.29	5,91	5.71
40	7.20	6.87	6.36	6.04	5.70	5.49
60	7.09	6.76	6.21	5.88	5,60	5.31
100	6.89	6.62	6.00	5.73	5.40	5.10
180	6.67	6.45	5.72	5.40	5.20	4.77
300	6.47	6.19	5.49	5.19	4.99	4.46
600	6.15	5.85	4.93	4.77	4.61	3.99
1200	5.79	5.43	4.56	4.34	4.28	3.50
1800	5.55	5.10	4.29	3.97	4.04	3.13
3000	5.22	4.76	3.96	3.64	3.78	2.74
4800	4.92	4.45	3.68	3.33	3.49	2.43
6000	4.78	4.30	3.58	3.20	3.37	2.35
7200	4.69	4.16	3.49	3.11	3.28	2.27

(b) 46.5°C

(c) 62.5°C

R.H. (%) t (sec.)	3	10	30	50	75	95
10	6.31	5.87	5.76	5.27	5.06	5.03
20	6.15	5.66	5.61	5.18	4.96	4.87
40	5.99	5.51	5.47	5.02	4.79	4.58
60	5,90	5.40	5.35	4.93	4.66	4.40
100	5.71	5.22	5.23	4.80	4.47	4.11
rtp 180	5.52	4.93	5.07	4.67	4.30	3.83
300	5.32	4.78	4.78	4.54	4.16	3.61
600	5.01	4.47	4.40	4.32	3.84	3,18
1200	4.67	4.17	4.04	4.02	3.39	2.78
1800	4.38	3,93	3.77	3.76	3.18	2,56
3000	4.13	3.71	3.49	3.55	2.98	2.36
4800	3.80	3.47	3.29	3.37	2.77	2.22
6000	3.70	3.36	3.17	3.23	2.67	2.19
7200	3 63	3.31	3.11	3.17	2.64	2.17
						1

ー般に湿度の 増加とともに 単調に 減少すると みなせるが、 これは CARRINGTON らが Sitka spruce について求めた 半径方向における 静的弾性率と含水率との関係⁸⁾, および多くの研究 者によつて 動的測定で求められた 弾性率と含水率との関係⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾ と類似した傾向である。しかし測定時間が長くなるにつれてその時間における緩和弾性率はこれらの関係からずれ、特に 15℃ の場合には湿度30%に達する前に極大値をとることが推定される。

さきに、湿潤ブナ材の曲げ応力緩和の結果から、緩和スペクトルは温度上昇とともに短時間 側へ移動することを示し¹⁸⁾、さらにヒノキの捩りクリープの湿度依存性についての実験結果よ り、遅延スペクトルは 10³~10⁴秒にピークをもち、湿度の増加とともに短時間側にそのピーク

— 46 —

8.0 15.0°C 9.0 È. -6.0 6.0 4.0 $E(t)(X | 0^3 kg / cm^2)$ 8.0 $E(10) (\times 10^{3} hg/cm^{2})$ E(1200) (X/0³ hg/cm² 46<u>.</u>5°C /5.0°C 4 7.0 6.0 46**5°**C 62,5°C 6.0 4.0 2.0 50 625 100 80 4(60 20 104 10 10 R.H.(%) T (sec.)

則元・山田:ヒノキの曲げ応力緩和に及ぼす湿度の影響



Fig. 4 Relaxation moduli at 10 sec. and 7200 sec. vs. relative humidity. $---- 15.0^{\circ}C - - - 46.5^{\circ}C$ $---- 62.5^{\circ}C$

は移動し、40°C 以上では含水率の増加とともにピークは高くかつ平らに近くなることを報告 したが⁶)、本実験で求めた緩和スペクトルは Fig. 5 の a~c に示すように温度 15°C の場合 には湿度が30%、すなわち 含水率が 10% に達するまでの領域で 非常に平坦な形を示し値も低 い。これは松本⁹⁾ がスギおよびヒバの動的測定で求めた対数減衰率がおおよそこの含水率域に おいて最小値を示すこと、あるいは KOLLMANN¹¹⁾、PENTONY¹⁹⁾、JAMES¹⁴⁾ らの報告にみられ る類似の傾向に対応する。さらにまた KOLLMANN は含水率 6~13% で各種の強度が最大値を 示すことを報告しており¹⁵⁾強度との関連性がみられ、室温では木材はこの含水率域で時間と応







Eig. 5 Relaxation spectra at various humidities for HINOKI wood. (62.5°C)

カに関しては比較的安定な状態をとると考 えられる。この含水率域の上下では緩和ス ペクトルにピークが現われるが,低含水率 領域に現われるものと高含水率側のものと は本質的にその機構が異なるものと考えら れる。低含水率域では木材実質の非結晶領 域の鎖状分子はある程度配列した状態でお 互に水素結合を形成しているのではなく, 局部的には不自然に屈曲した状態で結合し ているものと考えられ,KollMANN はこの ような状態では引張応力が生じていること を述べている¹⁶⁰。このように考えるならば 低含水率域で現われるピークはこの異常な 応力に起因するものと考えられる。一方高

含水率において現われるピークは、水分子が非結晶領域に存在する隣接鎖状分子間の水素結合 を切断することに起因するものと思われ、したがつてピークの位置は含水率の増加とともに短 時間側に移動している。 15° C のとき低く平坦であつた湿度30%のときのスペクトルは温度が 上昇して 46.5° C に達すると高いピークをもつ巾広い山となる。 62.5° C ではピークは湿度増加 とともに単調に短時間側に移動していて、 15° C のときに見られた一種の安定状態は極く低湿 度側に移行したものとみなされ、かつスペクトルは 46.5° C のそれに比し一般に低い。すなわ ち 46.5° C のとき低湿度で実験時間の範囲内では緩和が最も著しいといえる。

小野木らは親水性結晶高分子のナイロン6についての応力緩和で,時間一温度のみでなく時間一湿度の重ね合わせも成立することを報告している¹⁷⁾。木材に関しては,さきに,ブナ湿潤 材の曲げ応力緩和の結果から,温度 28°C を基準温度にとり緩和弾性率曲線を時間軸に平行移 動して重ね合わせて合成曲線の作成を試みているが,求められた合成曲線は完全に重なり合う ことはない。しかしシフトファクターの対数と絶対温度の逆数は直線関係を示し,その勾配よ り求めた活性化エネルギーは 53Kcal/mol となり,ブナのクリープで同様に温度 25°C を基準



にとつて重ね合わせて求めた値とほとんど一致することを報告している¹³⁾。竹村らはスギのク リープと温度について、クリープ量が時間と温度の2因子を変数とする変数分離形でかけるこ とを示し、時間一温度重ね合わせは測定時間の全域については成立しないが、時間の巾を微小 区間に限れば近似的に成立することを明らかにした¹⁸⁾。則元らはヒノキの捩りクリープの結果 より、クリープコンプラィアンスは含水率の増加とともに単調に減少せずある含水率で最小値 を示し、したがつて時間一湿度の重ね合わせは困難であることを示している⁶⁾。本実験におい て曲線形より最もシフトの可能とみられる温度 46.5°C について、湿度30%を基準にとつて時 間一湿度の重ね合わせを試みた結果 Fig. 6 のようになるが、各曲線の一端または両端におい て分枝を生じしたがつて湿度の重ね合わせは成立しないものと思われる。

Ⅳ 要 約

ヒノキの曲げ応力緩和に与える湿度の効果について調べ次の結果を得た。

(1) 緩和弾性率の値は短時間側においては一般に湿度の増加とともに減少するが、長時間側においてはこの関係がずれる。

(2) 室温附近では関係湿度10%~30%の間で緩和スペクトルは平坦であるが低および高湿度 ではピークが現われる。しかし両者の機構は本質的に異なるものと考えられる。

(3) 各湿度における緩和曲線を適当な距離だけ対数時間軸にそつて水平移動しても完全な合成曲線は得られず,したがつて時間一湿度の重ね合わせは成立しない。

Summary

The authors investigated the effect of relative humidity on the stress relaxation of HINOKI wood (*Chamaecyparis obtusa* ENDL.) by bending test and obtained the following results.

(1) The value of the relaxation modulus generally decreases with increasing relative humidity at the shorter time region, but its relation goes out of order at the longer time region.

(2) In the region of the relative humidity between 10% and 30% the relaxation spectrum is very flat and its value is fairly low at room temperature. Above and below this region the spectrum has a clear peak, and both of them seem essentially to be caused by different reason.

(3) By shifting the relaxation curves at each relative humidity only in the horizontal direction by proper distance, a smooth master curve cannot be obtained. So the method of time-humidity superposition is invalid for wood.

文 献

4) HEARMON, R. F. S., The Mechanical Properties of Wood and Paper, Interscience Pub. Inc., New York, (1953).

— 49 —

¹⁾ 竹村, 福山, 池田, 島根農大研報, 11A, 106 (1963).

²⁾ HEARMON, R. F. S. and J. M. PATON, Forest Prod. J., 14, 357 (1964).

³⁾ ARMSTRONG, L. D. and G. N. CHRISTENSEN, Nature, 191, 869 (1961).

木 材 研 究 第35号(1965)

- 5) 竹村, 福山, 春名, 島根農大研報, 9A-2, 103 (1961).
- 6) 則元, 宮野, 山田, 木材研究, No. 34, 37 (1965).
- 7) 山田, 角谷, 則元, 大迫, 竹村, 鈴木, 木材研究, No. 34, 205 (1965).
- 8) HEARMON, R. F. S., The Elasticity of Wood and Flywcod, Forest Froduct Res. Special Rep., No. 7, 23 (1948).
- 9) 松本 勗, 九大農学部演習林報告, No. 36, 46 (1962).
- 10) 梶田,山田,鈴木,木材誌,7,31 (1961).
 - 11) KOLLMANN, F. und KRECH, H., Holz als Roh-und Werkstoff, 18, 2 (1960).
 - 12) 深田栄一,小林理研報告,1,第1号,22(1951).
- 13) 山田, 佐道, 白石, 材料試験, 11, 50 (1962).
 - 14) JAMES, W. L., Forest Prod. J., 9, 383 (1961).
 - 15) KOLLMANN, F., Technologie des Holzes und der Holzwerkstoffe, 2Auf. Bd. 1, Springer-Verlag, Berlin, (1951).
 - 16) KOLLMANN, F., Holz als Roh-und Werkstoff, 18, 41 (1960).
 - 17) ONOGI, S., K. SASAGURI, T. ADACHI, and S. OGIHARA, J. Polymer Sci., 58, 1 (1962).
 - 18) 竹村,福山,島根農大研報,**7A**, 196 (1959).
 - 19) PENTONY, R. E., Comp. Wood, Bd. 2, Nr. 6, 131 (1955).

1

ĥ.

- 50 -